

暖一ツガ 先山。

イチャイ科

暖一イヌマキ 三熊山。

ウラボシ科

暖一〇コウザキシダ 柏原山。ハコネソウ 猪ノ鼻、柏原山。チャセンシダ 柏原山、猪ノ鼻。シノブ 柏原山。ヘラシダ 猪ノ鼻、柏原山。ナガサキシダ 猪ノ鼻。イワヤナギシダ 三熊山、柏原山。クリハラン 猪ノ鼻、柏原山。〇タマシダ 沼島。オオキジノオ 猪ノ鼻。アマクサシダ 三熊山。オオカナワラビ 柏原山。

寒一クジャクシダ 猪ノ鼻、柏原山。コウヤワラビ 三熊

山。リョウメンシダ 先山。

他一〇オオイタチシダ 三熊山。ヒメノキシノブ 三熊山。キジノオシダ 三熊山、柏原山。

コケシノブ科

他一コケシノブ 柏原山。

イワヒバ科

他一イワヒバ 猪ノ鼻。

ヒカゲノカツラ科

暖一ミズスギ 入木、沼島。

寒一マンネンスギ 先山。

他一ホンバノトウゲシバ 柏原山。

クロアシナガコガネに就いて

高橋 寿 郎

Notes on *Hoplia moerens* WATERHOUSE

by Tosio Takahasi

クロアシナガコガネ (*Hoplia moerens* Waterhouse) はコガネムシ科 (Fam. Scarabaeidae), アシナガコガネ亜科 (Subfam. Hopliinae), アシナガコガネ属 (Genus *Hoplia*) に属する一種である。

Waterhouse氏が産地として Hiogo, Nagasaki を挙げ、沢田氏が J. E. A. Lewis氏の標本より Mt. Unzen を報告された以外、不幸各地からの産地がほとんど知られて居ない様である。兵庫県下に於いても Waterhouse氏が発表された以外は全く知られて居ない。Waterhouse氏の Hiogo が何処を意味するのかわからないが案外本種は県下に多産するのではないかと思われる。一般に本種がどんなものであるか知られて居ない事も其の大きな原因の一つと思われる。邦文にて本種の記載あるのは沢田氏のものがあのみである。

筆者が県下に多産するのでは無いか?と言つたのは嘗つて 1940 年旧陸軍演習地であつた、青野ヶ原で本種の群棲するのを見、又採集して現在其の一部の標本を所有するからなのである。其の後再調査を考えた機会を得ずして今日に至つて居るもので、此処に本種の形態を紹介して注意を喚起したいと思ふのである。

筆者も青野ヶ原以外では未採集であるが、あの位群棲して居たのであるから県下各地でもまだ産地はある事と思われる。今後の調査結果に依るとしてかゝる産地を御存知の方は御教示を願いたい。

宋筆年々本誌発表を御薦め下さつた恩師室井先生に深く御礼申し上げる。

Hoplia moerens

Waterhouse

クロアシナガコガネ

Trans. Ent.

Soc. London, p. 100 (1875)

Miwa et Chujo,

Cat. Coleop. Jap. pars.5, p.73 (1939)

Fig. I



Hoplia moerens Waterhouse.



Fig. II

Hoplia moerens Waterhouse
a. 幼虫期
b. 成虫期

Sawada, Nippon no Kochu, I, 1, p. 37, pl. v, f. 3, 8, 10, pl. VI, f. 4, (1938)

体は黒色・灰白色・褐黒色と種々あれども黒色のものにありては往々艶を有するも他のものに於て、特に灰白色のものは之を缺く。

体の腹面及び尾筭板は銀緑色の光沢ある鱗片にて被わるゝも背面は概ね鱗片を缺き(稀にあるものあり)、暗灰色の微毛にて被われた時に小楯板、前胸背と翅鞘との境目、翅鞘の先端部に銀緑色の鱗片を有す。

頭楯は幅広く、側縁は畧々平行にて前縁は真直なり、触角は合♀共9節にして片状筭は3節よりなり、片部の畧々半分にて早のもの合のものより小なり。

前背板の側縁は中央に於て角ばり、前縁角は少しく突出し、後縁角は時に鈍きも角ばる。尾筭板は概ね平坦にして合に於ては押しつぶされたる感あるも早に於ては稍々凸面

を呈す。脚は各に於て早よりも長大なり。脚の色は概ね黒色、基節赤褐色のものもあり、脚全々褐色のものもある。前脛節は3歯を有し、前脚及び中脚は先端にて二分せる2爪を有し、短爪は長爪の4分の3程なり、後脚は1爪を有し分岐せず。

(体幅) 4mm.前後

(体長) 6.1~8mm.

(産地) 兵庫県青野ヶ原

なお此の記載に使つ標本は筆者自身青野ヶ原で(14—V—1940)採集した約20頭の♀♀標本である。(Mar. 1950)

姫路市白浜町の塩性植物について

藤 本 義 昭

姫路市白浜町には塩田があり近辺の海岸に比べ比較的広い砂浜が広がり、塩田の水路に数種の塩性植物が群落をつくっているのに興味を覚え調べて見た結果を次に記す。

白浜町は最近姫路市に合併された土地で、春は沙干狩に夏は海水浴に賑やかである。この海岸は山陽電車白浜駅より約1km余の地点にあり、東西約600m、西に小さな河口があり海岸の巾は南北約200m、東が約50mの三角形の海岸で砂浜の西寄りの方に休憩場が立ちならんでいる。この北に海水を塩田に引くための水路が約500m東西に走り、此の水路より北へは塩田で東の一带に拡がっている。

砂浜に散生している植物は、ハマヒルガオ、ハマゴウ、ハマボウフウ、ハマエンドウ、オカミルナ、ハマアカザ、コウボウシバ、コウボウムギ、オニシバが多い。そして最前端に出る植物はコウボウシバで、後方にはハマゴウ、コウボウムギ、オニシバが見られる。

白浜町全体に見られる植物をあげると、

- き く 科 ツラフキ、カワラヨモギ、ウラギク、ハマヨモギ、ノヂギク
- くまつぶら科 ハマゴウ
- ひるがお科 ハマヒルガオ
- ねなしがぶら科 ハマネナシカツラ
- いそまつ科 ハマリジ
- さくらそう科 ハマボツス
- せり科 ハマボウフウ、ハマゼリ
- にしきぎ科 マサキ

- まめ科 ハマエンドウ
 - ばら科 テリハノイバラ、カワラライコ
 - あぶらな科 ハマダイコン
 - なでしこ科 ハマツメクサ
 - つるな科 ツルナ
 - あかぎ科 ホソバノハマアカザ、オカヒジキ、マツナ、ハマホウキギ、ハママツナ、ハマアカザ
 - ゆり科 クサスギカヅラ
 - かやつりぐさ科 ハマアオスグ、コウボウムギ、コウボウシバ、シオクグ、ハマスグ、ハマアオスグ
 - いね科 ギョウギシバ、ケカモノハシ、アイアシ、オニシバ、ハマススキ
 - まつ科 クロマツ
 - うらぼし科 オニヤブソテツ
- の19科32属39種が見られる。

これらのうち塩性植物は、ウラギク、ハマヨモギ、ハマゼリ、ハマリジ、マツナ、ハマホウキギ、シオクグ、ハマサジである。此等の植物を噛んでみると皆塩辛い。砂地に生ずるオカヒジキなども同様である。この塩性植物は砂浜の東西約500mの塩田へ水を引く水路の南よりにある。此の水路に西端の水門より1m² 程度の帯をとり調べて第一表及び第二表のようになった。

第一表 (1948年8月調査)

植 物 名	被度 総計	平均 被度	出現数	頻度%	植 物 名	被度 総計	平均 被度	出現数	頻度%
ハ マ ヨ モ ギ	1003	2.40	298	64.0	ハ マ ゼ リ	25	0.06	63	14.0
ハ マ サ ジ	991	2.20	343	76.0	マ ル バ ア カ ザ	11	0.04	22	5.0
ハ マ マ ツ ナ	259	0.58	88	20.0	シ オ ク グ	7		11	2.4
ホ ツ バ ノ ハ マ ア カ ザ	207	1.46	182	40.0	ハ マ ヒ ル ガ オ	4		13	3.0
ハ マ ゴ ウ	201	0.47	63	14.0	ハ マ ス ス キ	2		3	0.7
ハ マ ホ ウ キ ギ	109	0.24	72	16.0	ミ チ ヤ ナ ギ	1	0.02	64	11.0
ギ ヨ ウ ギ シ バ	40	0.08	28	0.2	ハ マ ボ ツ ス			3	0.7
コ ウ ボ ウ シ バ	32	0.07	29	6.4	ウ ラ ギ ク			2	0.4